

令和7年度 岡谷市 予算編成の大要

令和7年2月

岡 谷 市

令和7年度の岡谷市当初予算案及び関係議案を議会に提出し、ご審議をいただくにあたり、予算編成の方針及び大要を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願いするものであります。

令和7年度は、「**第5次岡谷市総合計画後期基本計画**」の2年目として、これまでの取組を継続しつつ必要な改革を実行し、将来都市像であります「**人結び夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷**」の実現に向けて、本市のさらなる成長と飛躍のための基盤を築いていく年となります。

また、人口減少・少子高齢化や公共施設の老朽化対策などの従前からの課題に加え、原油価格・物価高騰や行政分野のデジタル化、さらには世界的な課題である環境負荷低減などへの対応が求められております。

特に、子育て・教育の分野に関しては、結婚・妊娠・出産・子育て・教育までの一貫した包括的な子育て支援に取り組み、子育てしやすいまち、住んでみたい、住み続けたいまちの実現をめざし、市の総力を挙げて取り組んでいく必要があります。

日々変化する社会経済情勢の中で発生する新たな行政課題への対応は、限りある財源の中で着実に対応する必要があり、そのためには、時代に即した施策を的確に実施するとともに、市民サービスの維持・向上に留意しつつ、廃止・縮小を含めた事務事業の見直し、再構築を進めていくことが重要であります。

こうしたことから、市民一人ひとりに笑顔と元気があふれ、性別や年齢に関係なくすべての市民の皆様に生きがいと活躍の場があり、誰もが輝くことができる岡谷市を市民の皆様とともにつくり上げるため、各種の施策、事業に全力を傾注して取り組んでまいります。

内閣府が公表した「**令和7年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度**」によりますと、令和6年度の我が国経済は、長きにわたったコストカット型経済から脱却し、デフレに後戻りせず「賃上げと投資が牽引する成長型経済」に移行できるかどうかの分岐点にあるとしております。

こうした中、政府は、賃金上昇が物価上昇を安定的に上回る経済を実現し、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」への移行を確実なものとするため、「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」を策定するとともに、その裏付けとなる令和6年度補正予算を迅速かつ着実に執行し、総合経済対策の効果を広く波及させていくとしております。

また、令和7年度の経済財政運営においては、引き続き、すべての世代の現在及び将来にわたる賃金・所得の増加を最重要課題とし、足元の物価高、賃金や調達価格の上昇に対応しつつ、令和7年度予算を着実に実行に移し、切れ目のない経済財政運営を推進するとしております。

さらに、当面の経済財政運営を推進していくに当たっては、デフレを脱却し、新たな経済のステージに移行することをめざして、「経済あつての財政」との考え方に立ち、財政状況の改善を進め、力強く発展する、危機に強靱な経済・財政をつくっていくとしております。

「経済財政運営と改革の基本方針2024」では、我が国を取り巻く環境が激変する中、経済再生と財政健全化の両立を図るため、潜在成長率の引上げと社会課題の解決に重点を置き、中長期的な視点を重視した経済財政運営などに取り組み、高齢化、人口減少が進む中においても、経済・財政・社会保障が一体で持続可能なものとしていくとしております。

このような見通しに基づく「令和7年度予算編成の基本方針」では、足元の物価高、賃金や調達価格の上昇に対応しつつ、デフレを脱却し、新たなステージとなる「賃上げと投資が牽引する成長型経済」への移行を実現することをめざして、物価上昇を上回る賃金上昇の普及・定着、地方創生2.0の起動、官民連携による投資の拡大、防災・減災及び国土強靱化、防衛力の抜本的強化を始めとする、我が国を取り巻く外交・安全保障環境の変化への対応、充実した少子化・こども政策の着実な実施など、重要政策課題に必要な予算措置を講じるとしております。

こうした方針に基づく国の令和7年度当初予算案は、一般会計の歳出総額を115兆5,415億円としており、過去最大の予算規模となっております。

また、総務省が公表した「令和7年度地方財政対策」によりますと、地方団体が住民のニーズに的確に応えつつ、こども・子育て政策の強化、防災・減災対策の取組等の推進、自治体施設の光熱費高騰への対応などの重要課題に対応し、行政サービスを安定的に提供できるよう、地方交付税については、前年度を2,904億円上回る18兆9,574億円を確保するほか、地方の一般財源総額については、前年度を1兆535億円上回る、63兆7,714億円を確保することとしております。

こうした考え方に基づく地方財政計画の規模は、前年度比3.6%増の**97兆100億円**程度、公債費などを除く地方一般歳出につきましては、前年度比3.6%増の**81兆2,800億円**程度が見込まれているところであります。

岡谷市におきましては、国による定額減税の反動増に加え、個人給与所得の増などが見込まれることから、個人市民税、法人市民税をはじめ、市税全体で増収を見込んでおります。

他方、令和7年度以降の一般会計の財政推計では、人口減少に伴い歳入全般で減が見込まれ、歳出においては、扶助費、公債費、公共施設等の改修や維持管理経費の増などを見込んでおります。

このような中にあっても、引き続き、子育て支援や産業振興、市民の安全・安心を確保するための施策と健全財政の堅持に向けた取組との調和を図りながら、後年度の財政需要に配慮した安定的な行財政運営に努めなければなりません。

そのため、「**第2次岡谷市行財政改革プログラム**」に基づき、公共施設等の長寿命化に向けた計画的な修繕、施設の統廃合などによる資産総量の適正化に向けた取組のほか、歳入確保と歳出削減、人材育成と意識改革など、たゆまぬ行財政改革に取り組み、人口規模や財政規模に見合った、時代にふさわしいまちづくりを進めてまいります。

この度、提出いたします令和7年度当初予算案は、「第5次岡谷市総合計画」に掲げる将来都市像「**人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷**」の実現に向けて、

- ・ ともに支えあい、健やかに暮らせるまち
- ・ 未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち
- ・ 人が集い、にぎわいと活力あふれるまち
- ・ 安全・安心で、自然環境と共生するまち
- ・ 快適な生活を支え、住み続けたいまち
- ・ みんなでつくる、確かな未来を拓くまち

の6つのまちづくりの基本目標を基調とする中で、限られた財源を喫緊の政策課題に重点配分し、より効果的な施策展開を図るため、後期重点プロジェクトであります、

- ・ 子育てしやすい環境の実現
- ・ 安全・安心の伸展

- ・ 未来に向けた産業の充実
- ・ 魅力発信と賑わいの創出

の4つを重点施策に掲げ、必要な施策・事業に財源を集中した、「将来への礎未来を育む元気創生予算」として編成しております。

あわせて、政府が策定しました「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」等を踏まえ、切れ目のない、より効果的な事業展開を図るため、昨年度に引き続き、令和6年度補正予算と令和7年度当初予算を一体とした「14か月予算」として編成をしております。

こうした考え方に基づく令和7年度の一般会計当初予算額は、**総額233億1,000万円**、前年度比では**9億1,000万円、4.1%の増**としております。

また、一般会計・特別会計等の合計では、**総額288億8,790万円**、前年度比では**7億1,700万円、2.5%の増**としております。

一般会計歳入の主な事項であります。市税につきましては、令和6年度決算見込額を基に**68億4,500万円**、前年度比では**2億6,700万円、4.1%の増**を見込んでおります。

地方交付税につきましては、令和6年度決算見込額や地方財政計画などを基に**50億2,500万円**、前年度比では**1億2,500万円、2.6%の増**を見込んでおります。

また、一般会計歳出のうち、事業費の増減が大きい主な事項であります。総務費では、市役所庁舎等空調設備更新事業費が皆減となる一方、防災行政無線等デジタル化整備事業費の増、自治体情報システム標準化移行事業費の皆増などにより、前年度比**6億8,362万3千円、27.9%増の31億2,952万8千円**、民生費では、児童手当の増、私立認定こども園施設型給付費負担金の増、地域医療介護総合確保基金事業補助金の皆増などにより、前年度比**4億7,234万1千円、6.2%増の80億9,374万5千円**、商工費では、イルフプラザ館内空調設備改修工事負担金及び中央町駐車場改修工事費の皆増などにより、前年度比**5億8,315万7千円、34.1%増の22億9,208万8千円**、消防費では、消防団屯所整備事業費の減、消防団車両更新事業費の皆減により、前年度比**6,583万8千円、9.6%減の6億1,745万6千円**、教育費では、私立幼稚園施設型給付費負担金の減、庭球場人工芝張替工事費及び

旧渡辺家住宅改修工事費が皆減となる一方、市民総合体育館大規模改修事業費の増、G I G A 端末第 2 期整備事業費の皆増などにより、前年度比 **2 億 7, 0 4 5 万 2 千円、1 3. 6 % 増**の **2 2 億 5, 6 1 3 万 1 千円**、公債費では、借換債元金償還金の減により、前年度比 **1 0 億 1, 8 1 8 万 7 千円、2 9. 8 % 減**の **2 3 億 9, 5 1 1 万 8 千円**としております。

次に、企業会計につきましては、水道事業・下水道事業・病院事業の 3 つの企業会計の収益的支出及び資本的支出の合計は **1 3 6 億 1, 8 3 2 万 2 千円**で、前年度比 **2 億 1, 3 3 4 万 6 千円、1. 6 % の増**としております。

それでは、基調に沿って、令和7年度当初予算案の概要を順次説明してまいります。

はじめに、基本目標『ともに支えあい、健やかに暮らせるまち』について説明申し上げます。

まず、結婚に対する支援といたしまして、男女の出会いの場を創出するため、恋つむぐ岡谷出会いの場創出事業として、ブラッシュアップセミナー及び婚活イベントを開催するほか、結婚に伴う住居費及び引越費用を支援する、おかやでスタート結婚新生活支援事業により、結婚に対する経済的な不安の解消に努め、引き続き、結婚のきっかけとなる男女の出会いの場の創出から、結婚・定住までトータル的にサポートしてまいります。

母子保健の充実といたしましては、乳児の健康の保持・増進を図るとともに、疾病及び異常を早期に発見し、適切な指導及び育児に関する助言を行うため、新たに1か月児健康診査事業を実施してまいります。

また、産後の初期段階における支援として、医療機関等への宿泊や通所によるサービスに必要な経費を助成する産後ケア事業につきましては、助成額を拡大するなど、より利用しやすい事業とし母子とその家族が健やかな育児ができるよう支援してまいります。

子どもの育成支援といたしましては、新たに子育てファミリー訪問支援事業として、家事・育児等に不安や負担を抱える子育て家庭を訪問し、不安などを傾聴するとともに、家事・育児等の支援を行うことで子育て支援のさらなる充実を図ってまいります。

また、子育て支援ショートステイ等事業では、保護者が平日の夜間や休日に不在となる家庭を支援するため、子どもを施設等において預かり、生活指導や食事の提供などを行うトワイライトステイ事業を新たに実施してまいります。

子育て世帯への経済的支援では、18歳までの子どもの医療費を支援する子ども医療費給付事業、幼児教育・保育の無償化に伴う副食費の減免、小中学校における就学援助費などにより、子育て世帯の経済的負担の軽減に努めてまいります。

学校給食費につきましては、令和6年度より、就学援助費の拡充により経済的

負担感の大きい低所得世帯等を対象として無償としております。

そのほかの家庭に対しましては、給食費の値上げ相当分を公費で支援してまいりましたが、物価高騰の影響を受ける子育て家庭の負担をさらに軽減するため、公費負担の割合を現行の11.3%から20%に拡大し、支援の拡充を図ってまいります。

保育園給食費につきましては、給食食材費の高騰分を公費にて支援することで、給食の質と量を維持し、子どもたちの健全な成長を支援するとともに、子育て世帯のさらなる経済的負担の軽減を図ってまいります。

さらに、3歳未満児の保育料については、第2子は半額、第3子以降を完全無償化とするほか、一定の要件を満たす子育て世帯について第1子から無償とする**子育て応援!! 3歳未満児保育料軽減事業**を継続してまいります。

このほか、安心して子どもを育てられる住まいの提供を図るため、小萩K市営住宅の2戸にユニットバス、給湯器、網戸等を設置するほか、子育て世帯の家賃を減免し経済的負担の軽減と安心の暮らしづくりを促進してまいります。

地域福祉の推進では、**重層的支援体制整備事業**として、支援関係機関との連携体制を構築し、対象者の属性を問わない相談支援、多様な参加支援、世代や属性を超えて交流できる地域づくりに向けた一体的な支援により、地域住民の複合化・複雑化した支援ニーズに対応してまいります。

また、岡谷市社会福祉協議会との連携により実施しております**成年後見支援センター事業**では、成年後見制度特設相談日を設けるほか、地域特性を生かした終活支援事業を展開するため、専門事業者等との協定締結により終活支援の体制強化と専門性の強化を図ってまいります。

高齢者福祉の推進といたしましては、医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療と介護の提供体制の構築を進めてまいります。

また、高齢者の加齢性難聴による聞こえにくさを軽減し、健やかで穏やかな生活を送ることができるよう、新たに**補聴器購入費用**の一部を助成してまいります。

このほか、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、長野県の**地域医療介護総合確保基金**を活用し、民間事業者が行う看護小規模多機能型居宅介護施設の整備を支援してまいります。

障がい者（児）福祉の推進といたしましては、「第5次岡谷市障がい者福祉計画」に基づき、地域生活支援の充実、自立支援と社会参加の促進、暮らしやすい環境の整備など、障がい者施策の一層の推進を図り、障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会の形成をめざしてまいります。

社会保障の円滑な運営といたしましては、**国民健康保険事業**について、財政運営の責任主体であります長野県とともに運営を担い、安定的な財政運営に努めてまいります。

生活保護に至る前の段階での自立支援の強化を図る**生活困窮者自立支援事業**では、自立相談支援を核に就労支援、住居確保支援、家計改善支援などそれぞれの状況に応じたきめ細かな相談、対応を行い、生活困窮者の自立に向けて幅広く支援してまいります。

このほか、心配ごと相談、消費生活相談、女性のための相談、ひとり親家庭相談など、生活に関する多様な相談窓口を一元化した**福祉総合相談事業**を継続し、それぞれの事情に応じて専門の相談員が丁寧な対応を行ってまいります。

保健・医療の推進では、**健康づくりの推進**といたしまして、市民一人ひとりのヘルスリテラシーの向上を図るため、岡谷市民病院との連携により本市の健康課題でもある「がん」、「脳卒中」、「急性心筋梗塞」、「糖尿病」、「精神疾患」の5疾病をテーマに健康づくり講演会を実施してまいります。

また、市民の健康に対する意識の向上や各種健診の受診率向上を図るため、受診者及び健康づくりに関する講演会の参加者などに対して、オカヤペイのポイントを付与する**健康ポイント事業**を継続実施してまいります。

地域医療体制の推進といたしまして、**岡谷市病院事業**では、天野病院事業管理者、内山病院長のもと、最大の特長であり強みであります「**多機能**」を活かした病院運営を進めるほか、新たに**手術支援ロボット**を導入するなど、診療体制の維持・充実に努め、市民の生命と健康を守る市民病院として、市民の信頼や期待に応え、親しまれる病院づくりを推進するとともに、地域医療の拠点として市内及び湖北地域の医療を守るという使命を果たしてまいります。

病院運営を取り巻く環境は、賃上げや物価高騰に診療報酬が追いつかない制度的要因により厳しい状況ではありますが、職員一丸となって、収入の確保と徹底した費用の節減に取り組むとともに、開設者である市としても最大限の支援に

努め、最大の福祉施策である岡谷市民病院の体制維持を図ってまいります。

また、医療体制の充実に不可欠な医師の確保につきましては、病院事業管理者とともに、引き続き、信州大学医学部等への訪問を重ね、岡谷市民病院の診療体制の充実に努めてまいります。

続きまして、基本目標『未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち』について説明申し上げます。

岡谷市教育大綱に教育理念として掲げます、自立し、共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくりの実現に向けて、子どもたちの確かな学びと成長の支えにより、自己肯定感と自己有用感を醸成するとともに、豊かな感性と人間性を育みながら、家庭・学校・地域・行政の協働により、岡谷のひとづくりを推進してまいります。

学校教育の推進では、異年齢の子どもたちをつなぐ新たな学び舎を創出するため、川岸学園整備事業として義務教育学校及び公立の幼保連携型認定こども園を整備してまいります。

なお、令和7年度につきましては、仮設校舎の建築、川岸小学校校舎の一部解体、大規模改修工事及び接続棟の建築工事に着手するほか、設立準備検討委員会及び専門部会により開校、開園に向けた検討・調整を行ってまいります。

また、長野県のウェルビーイング実践校T O C O - T O Nの指定を受けたことから、長野県教育委員会より新たに派遣される加配教員を中心として、幼保小中をつなぐ新たな学びの環境の市内全域への展開などを検討するほか、自ら学び方を選択でき、自己実現できる学校づくりに取り組んでまいります。

さらに、第2世代となる一人1台端末の更新や新たな校務システムの導入等により、小中学校における教育D Xを推進するほか、不登校傾向にある児童生徒の支援体制を整備し、誰一人取り残さない学びを保障するため、長地小学校及び市内4中学校に校内教育支援センターを設置してまいります。

このほか、中学校部活動の地域クラブ移行推進事業では、休日の部活動を学校から地域に移行していくため、検討委員会を中心に研究・検討を進めるほか、地域に立ち上がった団体の活動を根付かせていくため、県の委託による実証事業として移行団体のサポートを行ってまいります。

計画的に進めております学校トイレの洋式化につきましては、上の原小学校のトイレを整備することとし、安全・安心で、快適な学習環境の整備を進めてまいります。

通学路交通安全対策事業では、新たな「第5次通学路交通安全プログラム」に基づき、カラー舗装や区画線、注意看板の設置など、通学路における安全対策工

事を実施し、子どもたちの安全を確保してまいります。

生涯学習の推進では、新たに策定した「第7次岡谷市生涯学習推進計画」に基づき、人生100年時代を心豊かなものにし、将来へ向けて安定した生涯学習活動の基盤を築くための施策展開を図ってまいります。

学びを活かす岡谷学コレカラ岡谷事業では、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供するとともに、その学びを地域に還元し、後世に伝承することができるひとづくりに取り組んでまいります。

また、新たに移住者を対象とした講座として、**知る暮らしおかや講座**を開催し、岡谷で暮らしていく上でのルールや市内の公共施設、各種の助成制度などについて学んでいただき、岡谷でのよりよい暮らしの一助となるよう努めてまいります。

スポーツ・文化の振興では、**スポーツの振興**といたしまして、新たに策定した「第3次岡谷市スポーツ推進計画」に基づき、「スポーツで笑顔あふれる元気なまち」を基本理念として、多様なニーズに対応したスポーツ環境の充実を図るとともに、新たなスポーツ機会を創出するなど、市民一人ひとりが笑顔で元気に、はつらつとした暮らしを送ることができるよう各種施策を展開してまいります。

令和10年に長野県で開催されます、**第82回国民スポーツ大会**及び**第27回全国障害者スポーツ大会**につきましては、卓球競技及びアイスホッケー競技が本市で開催されることが内定しております。また、トライアスロン競技が諏訪湖周の2市1町での共同開催となるほか、公開競技として綱引競技が本市で開催されます。

令和7年度につきましては、新たに教育委員会に**国スポ・全障スポ推進室**を設置し、実行委員会組織の立ち上げのほか、関係機関との調整を図りながら事業を推進してまいります。

このほか、**スポーツ環境の整備・充実**として、国民スポーツ大会等の開催を見据えるとともに、施設の長寿命化に向け**岡谷市民総合体育館の大規模改修工事**を行うほか、令和8年度に予定をしている**やまびこの森アイスアリーナ改修工事**の実施設計業務を行い、市民一人ひとりが安全で快適にスポーツ活動を行うことができる環境を整えてまいります。

文化・芸術の振興として、岡谷蚕糸博物館シルクファクトおかやでは、「信州の作家展」と題し、上田紬の作家小山憲市氏の作品展を開催するほか、昭和初期の経済不況の影響により、製糸業から味噌醸造業への転換、その後、全国的にも高い知名度を誇ることで、市民のみならず、より多くの皆様にシルクの良さとまちの魅力を伝え、シルク文化・シルク産業のさらなる発展へつなげてまいります。

また、武井武雄の童画の精神を継承発展させ、新しい童画文化の創造をめざすとともに、童画のまちづくりを全国に向けて発信するため、**第13回武井武雄記念日本童画大賞**を開催いたします。

岡谷美術考古館では、**特別企画展等開催事業**として、岡谷市出身の切り絵作家日達れんげ氏の作品展及びワークショップのほか、同じく岡谷市出身で日本の現代美術を牽引する画家として活躍した辰野登恵子氏の作品展などを開催することで、質の高い芸術、文化に触れる機会を創出するとともに、来館者の増によるまちなかのにぎわい創出につなげてまいります。

さらに、**旧岡谷市役所庁舎保全事業**として、国の登録有形文化財であり岡谷市及び市民の貴重な財産であります旧岡谷市役所庁舎を後世に着実に継承するため、有識者による保全・活用方針の検討、市民参加型ワークショップによる保全活動のほか、普段は一般公開していない建物内部をより多くの方に見ていただくとともに関心を持っていただくため、デジタルコンテンツの制作に着手し、市制施行90周年の節目となります令和8年度のリリースをめざしてまいります。

このほか、**岡谷市史編さん事業**につきましては、**市史編さん室**を中心に、歴史的資料の収集・整理、市史に関する調査研究などを進めてまいります。

続きまして、基本目標『人が集い、にぎわいと活力あふれるまち』について説明申し上げます。

産業の振興では、**工業の振興**といたしまして、「岡谷市工業活性化計画」に掲げる将来工業都市像「未来を創造する、高度なものづくりのまち」の実現をめざして、各種施策を展開してまいります。

産業集積の強化では、工場の新設・移転時に土地取得額の一部を助成する**商工業振興条例補助金**のほか、工場等の家賃を助成する**企業立地支援補助金**などにより、市外企業の誘致をはじめ、市内企業の事業拡大と流出防止、空き工場の活用促進に取り組み、本市の強みであります産業集積の維持・拡大に努めてまいります。

また、新規創業者支援といたしまして、「創業支援等事業計画」に基づく、起業、技術相談、販路開拓の支援や**創業のまち岡谷実現事業**による資金面での支援のほか、諏訪圏工業メッセの出展ブースを確保するなど、創業まもない中小企業者の経営基盤の確立や受注開拓を支援し、地域経済の活性化と雇用拡大を図ってまいります。

さらに、未来の担い手となる若者の起業家マインドを育成し、未来予測が困難な社会環境において柔軟に対応できる人材を育成し、岡谷市での創業につなげるため、新たに**子ども創業マインド育成事業**として、小学校高学年及び中学生を対象に創業者による講演会を開催するほか、アイデア発想のためのワークショップなどを実施してまいります。

工業活性化対策の推進では、市内企業の新技術・新製品等の開発を支援する、**新技術・新製品等ものづくりチャレンジ企業応援事業**について、グリーン成長事業枠として、国のグリーン成長戦略における14の重点分野に取り組む企業に対しては補助限度額を引き上げ、GXへの挑戦を後押ししてまいります。

また、**カーボンマネジメント支援事業補助金**として、市内企業が自社から排出する温室効果ガスの量を把握するとともに、その削減のための取組を支援することで、温室効果ガスの排出抑制と、エネルギーコストの削減の両立による経営基盤強化を図ってまいります。

さらに、**ものづくり現場高度化支援事業補助金**として、多くの市内製造業が抱えている人手不足やデジタル化の課題を解消するため、省力化や自動化のため

の設備投資に要する経費及びデジタル技術の活用・導入に要する経費を助成することで、市内製造業の業務効率化と生産性の向上を促進するとともに、企業競争力の強化を後押ししてまいります。

このほか、市内中小企業の成長産業への参入を支援する**成長産業販路開拓支援事業補助金**につきましては、補助対象経費を拡充し、成長産業へのさらなる挑戦を支援してまいります。

地域経済を牽引する事業者の成長促進を通じて、強靱な産業基盤の構築を図る**地域経済牽引事業**につきましては、計画に基づく大型投資に対する固定資産税の課税免除を3年間延長することとし、地域経済のさらなる活性化を後押ししてまいります。

岡谷市の産業振興拠点であります、**テクノプラザおかや**につきましては、建設から20年余りが経過し、経年による劣化が進行していることから、長寿命化改修として全館空調システムの冷温水機更新工事を実施してまいります。

商業・サービス業の振興といたしましては、「第2次岡谷市商業活性化計画」に、商業の将来像として掲げる『人が集い、くらしに彩りと潤いがあふれ、「楽しい」があるまち』の実現をめざして、各種施策を展開してまいります。

商業等振興補助金として、新規出店の際の改修や、既存店舗の改修に要する経費などを助成することにより、長期的に商業活動を展開する店舗を増やすとともに、回遊性のある商業地の形成をめざしてまいります。

また、岡谷TMOとの連携を深める中で、商業会等が行う販売促進活動を積極的に支援し、商業会等の連携による取組を促進することで、中心市街地のにぎわいをつくり出し、消費需要の喚起に努めてまいります。

このほか、建設から27年を経過した**イルフプラザ**については、経年による老朽化が進んでいることから、長寿命化改修として館内空調設備の更新を行うほか、同じく27年を経過した中央町駐車場の改修工事を実施してまいります。

農林漁業の振興といたしましては、新たに、**新規就農者育成総合対策事業補助金**として、次世代を担う農業者となることを志し、新規に農業経営を開始する方に対し、就農に必要な資金を交付するとともに、サポート体制を構築し早期の経営確立を支援してまいります。

また、新たに**ツキノワグマゾーニング管理計画策定事業**として、クマと人間と

の緊張感ある共存関係を再構築し、農林業や人への被害を軽減するため、ツキノワグマの地域区分管理を設定するとともに、各区分に応じた被害防止や捕獲等の管理方針を定めてまいります。

このほか、**林業の基盤整備**といたしまして、**林道常規寺線の舗装工事**のほか、林道の安全な通行の確保と長寿命化を図るため、**林道橋梁点検**を実施してまいります。

ブランドの振興といたしましては、シルク岡谷、糸都岡谷の歴史と文化を継承するとともに、岡谷ブランドの核となるシルクを活かしたまちのにぎわいを創出するため、**岡谷シルク推進事業**として、引き続き、各種の取組を展開してまいります。

また、新たに**若者・よそ者視点から岡谷の魅力を再発見学生フィールドワーク事業**として、学生がフィールドワークを行うために本市を訪れる際の交通費及び宿泊費の一部を支援することで、より多くの学生を呼び込み、学生による岡谷市の地域課題の研究や地域の魅力の深掘りを促進し、地域ブランディングにつなげてまいります。

観光の振興では、諏訪湖サイクリングロードの全線開通のほか、諏訪湖スマートインターチェンジの供用開始を契機として、諏訪湖の景観やアクティビティを活かした観光誘客に取り組んでまいります。

また、本市を代表する市民祭**岡谷太鼓まつり**では、より積極的なPRに努め、観光誘客の拡大を図るほか、郷土芸能の発展・継承と後継者育成に取り組んでまいります。

このほか、春は横河川の桜、鶴峯公園のつつじ、夏は小坂公園のあじさい、秋は出早公園のもみじなど、自然環境に恵まれた、四季折々の観光資源を活かし、多くの方に足を運んでいただけるよう取り組んでまいります。

働く環境の充実では、新たに**若者チャレンジものづくり開発推進事業**として、課題解決型学習を通じて、大学生及び地元高校生との協働による新たな商品開発を行うとともに、地元就職及びUターン就職を促進してまいります。

また、新たに**企業リクルート活動支援事業**として、市内企業の人手不足の解消に向け、人事コンサルティング企業との連携により、効果的な採用活動の実施に向けた情報提供や相談を行い、人材確保の一助としてまいります。

このほか、**家族にもやさしい職場づくりでU I J ターン強化事業**として、コンサルタントによる市内企業の強み・魅力の向上を後押しするとともに、採用に向けた効果的なP R戦略支援などを行い、若者のU I J ターンの促進と採用力の強化を図ってまいります。

移住・定住の促進では、移住・定住の促進を担う**地域おこし協力隊**を新たに1名採用し、シティプロモーションをさらに強化することで、岡谷市の知名度向上を図ってまいります。

また、大学生等の本市への就職及び移住を支援するため、**就職・移住学生支援事業**として、東京圏の大学を卒業する大学生等に対して、就職活動に要する交通費及び移転費の一部を助成してまいります。

さらに、**若者移住者住まいの支援事業**として、市内へ転入し、かつ住宅を取得した方に対して最大100万円を補助するほか、大学等へ通う学生及び29歳以下の勤労者等に対する民間賃貸住宅の家賃補助を引き続き実施することで、移住・定住をさらに促進してまいります。

このほか、若者の移住・定住の促進と併せて、人手不足の解消を図るため、**就業・創業移住支援事業**として、国、県と連携して、県外から市内へ移住し、起業もしくは一定の要件を満たす中小企業等へ就業した方に、移住等に要する経費を助成してまいります。

続きまして、基本目標『安全・安心で、自然環境と共生するまち』について説明申し上げます。

安全対策の推進では、**危機・防災・減災対策の推進と消防力の強化**といたしまして、緊急時の情報発信機能を強化するとともに、住民への情報伝達をより確実なものにするため、**防災行政無線のデジタル化及び防災気象情報システムの構築**を進め、年度内の完了及び令和8年度からの運用開始をめざしてまいります。

また、新たに、**大規模地震対策備蓄物資強化事業**として、令和6年能登半島地震で顕在化した課題を教訓にするとともに、長野県が策定した「長野県地震防災対策強化アクションプラン」に基づき、災害時及び避難所開設の初期対応に必要な防災備蓄物資の計画的な整備充実を図ってまいります。

さらに、**令和7年度長野県総合防災訓練事業**として、長野県との共催により、岡谷湖畔公園をメイン会場に、防災関係機関と地域住民が相互に連携した各種の訓練を総合的に実施することで、災害時に即応できる体制を確立するとともに、地域防災力や防災・減災意識の向上を図ってまいります。

このほか、消防団員の安全技能向上と地域防災力の強化を図るため、団員の長野県消防学校警防科での研修により、必要な知識、技能を習得するほか、消防車両の運転に必要な準中型自動車免許の取得を支援してまいります。

台風や集中豪雨による被害が相次ぐ中、河川の氾濫や浸水被害を未然に防ぐため、市が管理する普通河川の河床整備や護岸改修などを行うほか、土砂や樹木によって流れが阻害されている河川の浚渫を計画的に実施する**河川緊急浚渫推進事業**に、引き続き、財源を重点配分して取り組んでまいります。

環境保全の推進では、新たに策定した「第5次岡谷市環境基本計画」に掲げる望ましい環境像「人と自然が共生し、未来へつなぐゼロカーボンシティ」の実現をめざし、官民協働により各種の施策を展開してまいります。

地球温暖化防止対策の推進といたしまして、市役所庁舎の**照明LED化事業**を実施するほか、各区が行う防犯灯のLED化及び公会所等の照明設備のLED化に要する経費に対して支援してまいります。

また、諏訪湖周2市1町の連携事業となります、**デコツーリズムin諏訪湖事業**により、車中心の移動手段の見直しによる二酸化炭素排出量の削減をめざすとともに、健康づくりや地域経済への二次的効果も含め、2050年カーボンニ

ュートラルの実現に向けた意識の醸成に努めてまいります。

さらに、**住宅用再エネ設備等導入促進事業**として、個人住宅に設置する蓄電システム及び電気自動車充放電設備の導入経費の一部を助成することで、再生可能エネルギーの利用促進と二酸化炭素排出量の削減を図ってまいります。

生活環境対策の推進といたしまして、ごみの減量化・資源化を推進するため、今年度モデル地区で実施いたしました**製品プラスチックの分別収集**を市内全域で実施してまいります。

また、公共施設等へのウォーターサーバー設置によるマイボトルの利用促進により、プラスチックごみの削減とゼロカーボンシティの実現に向けた普及啓発を推進してまいります。

居住環境の充実では、**空き家対策事業**として、空き家所有者等へのアプローチや相談会の開催により、空き家の発生予防と適正管理に努めるとともに、空き家の除却及び家財等の処分に要する経費に対して助成することで、増加している空き家の解消と利活用を促進してまいります。

また、住宅の耐震診断及び耐震改修等に要する経費を補助する**住宅防災・減災事業**につきましては、補助限度額を拡大することで、住宅の耐震化をより一層促進してまいります。

続きまして、基本目標『快適な生活を支え、住み続けたいまち』について説明申し上げます。

計画的土地利用の推進では、**岡谷駅周辺整備事業**として、ララオカヤの令和8年度の解体着手及び整備検討に向けて、市民を交えたビジョン策定に加え、駅前空間における交通実態調査及び影響検証のほか、官民連携体制の構築を進めてまいります。

なお、事業の推進にあたりましては、新たに建設水道部に**まちづくり整備課**を設置し、推進体制の充実・強化を図ってまいります。

また、**都市公園施設長寿命化推進事業**として、間下堤公園、湖畔公園及び出早公園の遊具を更新するほか、岡谷湖畔公園イベントスカイスポーツゾーンへ新たにバイオマストイレを設置するなど、誰もが楽しく快適に、安全で安心して利用できる公園整備を推進してまいります。

都市基盤の整備では、**幹線道路と交通網の整備**といたしまして、県事業であります**地域幹線道路整備促進事業**により、主要地方道下諏訪辰野線の川岸小学校前から観虫橋の間の整備を進めてまいります。

また、**湖畔若宮地区内道路整備事業**として、地区整備計画に基づき、市道岡谷110号線の整備を進め、地区内の安全で良好な住環境の形成を図ってまいります。

本年夏頃に供用開始予定であります**諏訪湖スマートインターチェンジ**につきましては、諏訪市との協働による開通式典を予定しているほか、供用開始を契機として、地域産業の発展や市民生活の利便性の向上など、地域のさらなる活性化を図ってまいります。

生活道路の整備といたしましては、交通量の多い主要幹線道路や身近な生活道路を中心に計14路線、総延長約4kmにおよぶ舗装の維持補修及び劣化が軽微な段階で修繕を講じる予防保全型の維持補修に努めてまいります。

また、**橋梁維持補修事業**では、これまでに実施してまいりました道路法に基づく定期点検の結果を踏まえ、中央町一・二丁目歩道橋の改修工事を実施するほか、43箇所の橋梁点検を実施することで、安全性の確保と将来的な維持管理コストの削減を図ってまいります。

上下水道の維持・整備といたしまして、水道事業では、「岡谷市水道事業経営戦略」及び「岡谷市水道事業基本計画」に基づき、将来を見据えた経営基盤の強化を図りつつ、更新時期を迎えた**水道施設の更新事業**として、内山水源の取水ポンプの更新などを行うほか、**水道施設の耐震化**を計画的に進め、安全で安心なおいしい水を将来にわたり、安定的に供給してまいります。

下水道事業では、「岡谷市下水道事業経営戦略」をはじめとする各種計画に基づき、予防的修繕を行う**下水道ストックマネジメント事業**のほか、**下水道総合地震対策事業**により災害に強い施設整備を推進してまいります。

また、新たに**公共下水道官民連携推進事業**として、限られた予算と人員の下で、効率的な下水道事業を持続的に実施していくため、民間事業者の技術やノウハウを最大限活用する官民連携事業の導入可能性調査を実施してまいります。

なお、下水道使用料につきましては、人口減少などにより使用料収入が減少しており厳しい経営環境が続くものと予想しておりますが、国庫補助制度の活用などにより財源を確保しつつ、経費の節減や収納率の向上に努めることで、下水道使用料を据え置いた場合でも、令和7年度からの3年間は利益を確保することができる見通しであることから、大規模な災害など突発的な事象が発生しない限り、現行使用料のまま据え置くことといたしました。

続きまして、基本目標『みんなでつくる、確かな未来を拓くまち』について説明申し上げます。

地域コミュニティの振興では、区の活動拠点であり、災害時の避難所にもなる公会所の安全性を確保するため、橋原区及び三沢区が行う公会所の改修・建設事業に対して、必要な経費の一部を助成してまいります。

また、令和7年度は、マウント・プレザント市との姉妹都市提携から60周年となることから、訪問団を受け入れ交流を深めることでさらなる友好親善を図ってまいります。

自治体D Xの推進といたしましては、新たに企画政策部に**D X推進室**を設置するとともに、民間企業からデジタル専門人材の派遣を受け、I C Tの知見やノウハウに基づく助言、マネジメントにより、本市のD Xを推進してまいります。

また、マイナンバーカードの更新手続きの増加に伴い、窓口の混雑が予想されることから、更新の手続きに必要な申請書の自動作成システムを導入し、市民サービスの向上と業務の効率化を図ってまいります。

以上、令和7年度予算編成の概要を説明申し上げます。

冒頭に申し上げましたとおり、令和7年度は、第5次岡谷市総合計画後期基本計画の2年目であり、本市のさらなる成長と飛躍に向けた基盤を築いていく年となります。

第5次岡谷市総合計画に掲げます将来都市像「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」の実現をめざすとともに、重点施策に掲げました後期重点プロジェクトの「子育てしやすい環境の実現」、「安全・安心の伸展」、「未来に向けた産業の充実」、「魅力発信と賑わいの創出」に基づく施策展開により、喫緊の課題であります人口減少や急速に進む少子高齢化に的確に対応してまいります。

令和7年、今年の一文字として「挑」という漢字を選びました。

岡谷市は今、多くの地方都市と同様に人口減少・少子高齢化により税収が減少する一方で、福祉や医療にかかる費用は増大し、加えて、公共施設やインフラ施設の維持管理経費も大きくなっており、地域経済規模の縮小と相まって持続可能な行財政運営の難しさに直面しております。

また、先行きが不透明な社会経済情勢、国政の状況により、将来の予測が困難な状況が続いております。

しかしながら、このような厳しい現状におきましても、時代の流れや国・県などの動向に十分注視しつつ、市民の皆様とともに新たな行政課題に挑み、さらに、岡谷駅周辺整備、川岸学園整備といった岡谷市の未来への投資に積極果敢に挑戦してまいります。

岡谷市のさらなる発展と市民福祉の向上、そして、笑顔と元気あふれる岡谷のために全身全霊をかけ、申し上げてまいりました施策、事業に全力を傾注して取り組んでまいりたいと決意しております。

議員各位並びに市民の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げまして、私の所信の一端といたします。

